

株主メモ

- **事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
- **定時株主総会** 基準日 毎年3月31日
開催日 毎年6月中
- **剰余金の配当** 期末配当基準日 3月31日
中間配当基準日 9月30日
- **単元株式数** 100株
- **公告方法** 電子公告（事故その他やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載）
<http://www.tpr.co.jp/>
- **株主名簿管理人** 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
- **同事務取扱場所** みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
- **お問い合わせ先**

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324（フリーダイヤル）
お取扱店	お取引の証券会社になります。	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取以外の株式売買は出来ません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

- **ホームページアドレス** <http://www.tpr.co.jp/>

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせたいため、アンケートを実施いたします。お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com> アクセスコード **6463**

 Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。

 kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で理庫（図書カード500円）を当選させていただきます

 ※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社エーツメディアについての詳細は<http://www.a2media.co.jp>）ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ 「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900（平日 10:00～17:30）
MAIL:info@e-kabunushi.com

CHANGE AND CHALLENGE

第78期 中間報告書

2010.04.01-2010.09.30

TPR 帝国ピストンリング株式会社

帝国ピストンリング株式会社

証券コード：6463
（東証一部）



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配とご支援を賜り、まことにありがたく厚く御礼申し上げます。当社第78期第2四半期累計期間が終了いたしましたので、概況につきご報告申し上げます。

業績は概ね回復しました。

「100年に一度」と言われた急激な景気の落ち込みをもたらした金融危機から2年を経過し、アジアを中心とした新興国の旺盛な需要が引っ張る形で企業の業績は軒並み回復基調となり、日本経済もようやく一息つける状態になりました。

世界の自動車産業においても、国内及び欧米市場は未だに脆弱さから脱却できておりませんが、中国やインド等の新興国市場は力強い好調さを維持しており、当グループ中国拠点では操業開始10周年の節目を各社が次々と迎えて、さらなる増産とそのための工場建屋の新築・拡張を競っている状況です。

今回ご報告いたします当グループの2010年度第78期第2四半期業績は、エコカー補助金に支えられた国内市場の回復と、海外市場、とりわけ中国、新興国市場の好調と原価低減活動、経費削減努力により、お蔭様で予想を上回る額の連結黒字を確保することができました。これにより、配当につきましては当初より4円増配し、年間14円（中間7円）とさせていただきます。ごぞいます。

「変革と挑戦」を国内、海外とも強力に推進します。

10年度後半につきましては、中国等新興国の好調さは持続するものと予想されますが、それを除く国々、特に欧米各国の自動車需要低迷は更にはばらく続くものと想定されます。さらにエコカー補助金の廃止に加え、1ドル80円前後の円高が定着しそうな状況であり、国内自動車メーカー各社の生産販売計画も慎重な姿勢を崩しておりません。

私どもT P Rグループにおきましても、景気回復に安堵することなく、先行き不透明な現状が今後も続くとの厳しい認識のもと、引き続き緊張した企業経営が必要であると認識しております。

海外においては、当グループの強みである世界5極の販売・生産拠点を駆使し、成長著しい新興国市場向けを拡大することに全力を注いでまいります。前述の中国各社はもとより、アセアン地区の供給拠点としてのベトナムのT P R V、及びインドのT P R Iにおいても、急激な需要拡大に対応すべく、増産と品質向上に努めてまいります。

国内グループ会社においても、一層の効率化と企業基盤整備を推進するとともに、株式会社サンライトの子会社化に伴うゴムシール事業や、長野地区における介護事業への進出等により、積極的にグループを発展・成長させてまいります。

私どもT P Rグループは、「チェンジ アンド チャレンジ」を合言葉に経営の合理化、効率化を徹底して実行し、将来に向けた企業体質の強化と体制作りを進めてまいります。

今後とも、皆様の変わらぬご支援、ご理解をお願い申し上げます。



代表取締役会長兼社長
平出 功

第2四半期連結決算ハイライト

■ 売上高	27,776百万円
■ 営業利益	3,839百万円
■ 経常利益	4,161百万円
■ 四半期純利益	2,353百万円

通期の見通し

景気刺激策の終了による市場への影響、円高による輸出拡大の鈍化等、日本経済の回復ペースは、穏やかなものに転じることが予想されるものの、年間を通じては、当社グループはグローバルに展開した生産拠点での操業度効果、原価低減等による業績改善が期待できることから、2011年3月期通期連結業績を下記のように予想しております。

2011年3月期通期連結業績予想

売上高	55,000百万円
営業利益	6,200百万円
経常利益	6,900百万円
当期純利益	3,600百万円

業績の概況

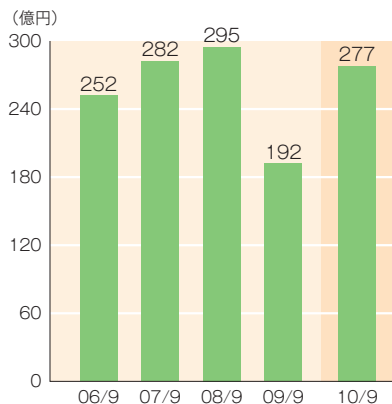
当第2四半期連結累計期間を取り巻く環境は、雇用情勢や個人消費は引き続き厳しい状況にあるものの、各種の経済政策効果や新興国を中心とする海外経済回復による輸出の増加により着実な回復に向けた動きが見られました。先行きにつきましては、各種経済政策終了による国内生産の反動減、海外景気の下振れ懸念や円高による輸出拡大の鈍化により、日本経済の拡大ペースが穏やかなものにとどまることが予想されます。

当社グループが主として関連する自動車業界も、エコカー購入補助金制度による需要増加に伴う国内市場の回復に、年初来前年比プラスに転じた輸出台数の増加が加わり、国内生産台数は前年同月比大幅な増加を

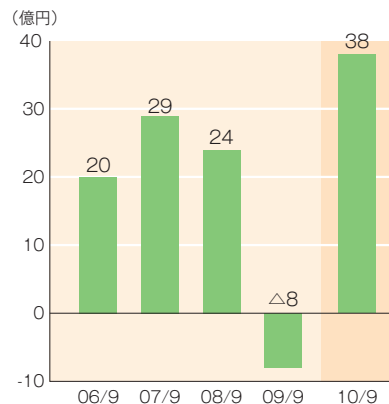
継続しました。

このような環境の中で、当社グループはグローバルに展開した生産拠点を活用し、旺盛な受注を取り込んだことによる操業度効果、原価低減活動の推進、固定費圧縮の継続等の収益改善に取り組んでまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は277億7千6百万円（前年同期比44.5%増）、営業利益は38億3千9百万円（前年同累計期間は8億3千5百万円の営業損失）、経常利益は41億6千1百万円（前年同累計期間は6億9千5百万円の経常損失）、四半期純利益は23億5千3百万円（前年同累計期間は9億1千2百万円の四半期純損失）となりました。

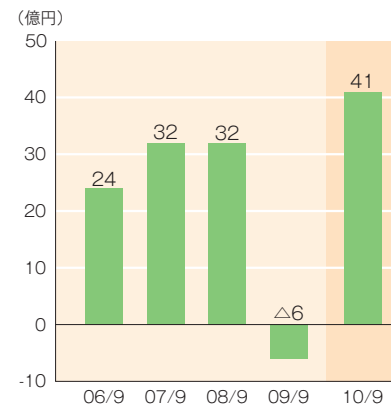
売上高



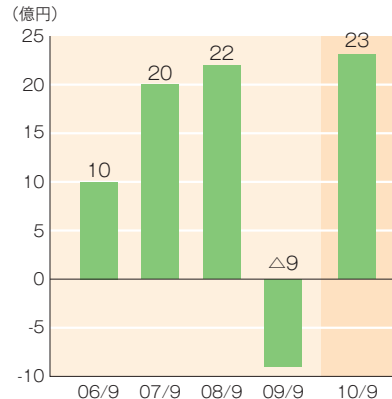
営業利益



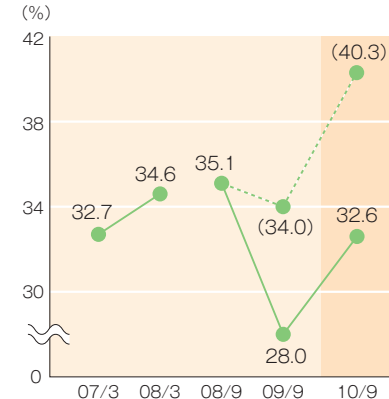
経常利益



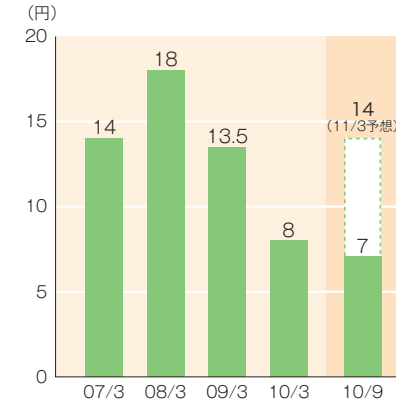
四半期純利益



自己資本比率



1株当たり配当金

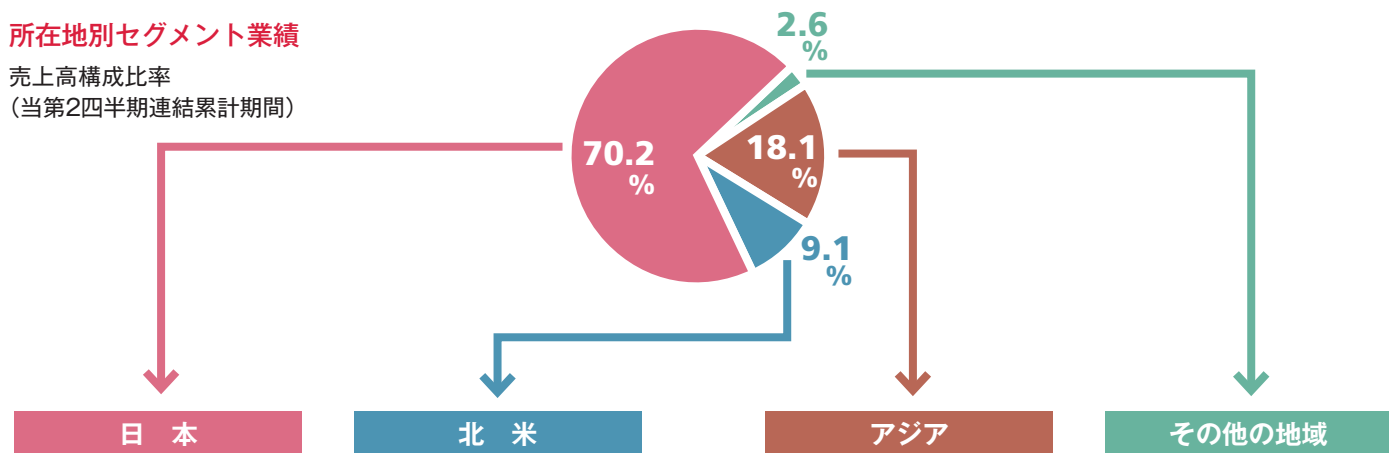


※ () 内は、総資産から現預金を控除した場合の数値

セグメント情報

所在地別セグメント業績

売上高構成比率
(当第2四半期連結累計期間)



日本

国内需要の回復と輸出の増加により、売上高は195億円となりました。操業度効果とさらなる原価低減活動の推進、経費節減の継続により、営業利益は22億1千万円となりました。

北米

穏やかな景気回復が続いている北米市場での売上高は25億2千5百万円となりました。営業利益は1億8千7百万円となりました。

アジア

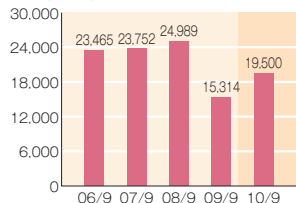
景気拡大のテンポは穏やかになったものの、好調を維持しているアジア市場での売上高は50億2千7百万円となりました。営業利益は14億1千8百万円となり、増益基調を継続しております。

その他の地域

回復が遅れている欧州市場の生産動向が影響し、売上高は7億2千3百万円となりました。営業利益は9千1百万円となりました。

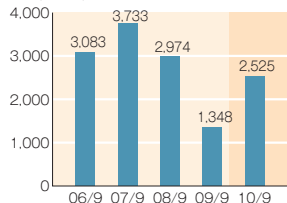
売上高

(百万円)



売上高

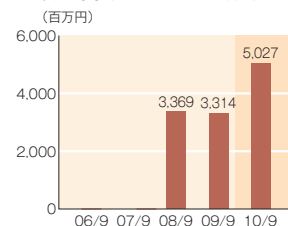
(百万円)



売上高

(百万円)

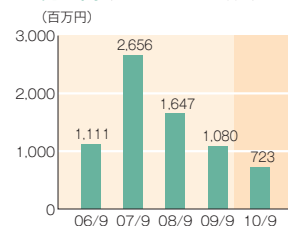
(07,08はその他に含む)



売上高

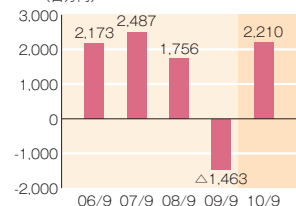
(百万円)

(07,08はアジアを含む)



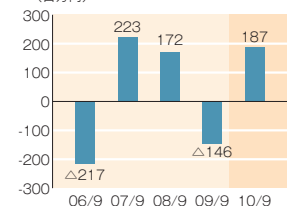
営業利益

(百万円)



営業利益

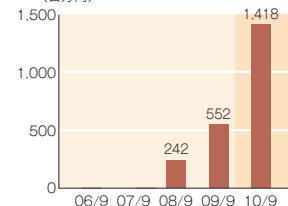
(百万円)



営業利益

(百万円)

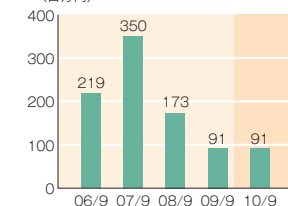
(07,08はその他に含む)



営業利益

(百万円)

(07,08はアジアを含む)



連結財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表 (要旨)

単位：百万円

科目	当第2四半期 (2010.9.30現在)	前期末 (2010.3.31現在)
資産の部		
流動資産	36,335	34,898
固定資産	41,747	43,257
有形固定資産	27,581	27,862
無形固定資産	771	887
投資その他の資産	13,395	14,507
資産合計	78,083	78,155
負債の部		
流動負債	34,439	35,229
固定負債	14,212	15,323
負債合計	48,651	50,553
純資産の部		
株主資本	26,449	24,105
評価・換算差額等	△ 961	△ 326
新株予約権	45	41
少数株主持分	3,898	3,782
純資産合計	29,431	27,602
負債純資産合計	78,083	78,155

■ 資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前連結会計年度末と比較して7千2百万円減少し、780億8千3百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が11億4千万円増加した一方、長期繰延税金資産が5億9千2百万円、投資有価証券が3億3千4百万円、有形固定資産が2億8千1百万円減少したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比較して19億1百万円減少し、486億5千1百万円となりました。これは主に借入金が19億9千4百万円減少したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して18億2千8百万円増加し、294億3千1百万円となりました。これは主に利益剰余金が23億4千4百万円増加したこと等によるものであります。

■ 四半期連結損益計算書 (要旨)

単位：百万円

科目	当第2四半期 (2010.4.1~ 2010.9.30)	前第2四半期 (2009.4.1~ 2009.9.30)
売上高	27,776	19,228
売上原価	19,484	16,136
売上総利益	8,292	3,092
販売費及び一般管理費	4,452	3,927
営業利益又は営業損失 (△)	3,839	△ 835
営業外収益	1,011	686
営業外費用	690	546
経常利益又は経常損失 (△)	4,161	△ 695
特別利益	11	287
特別損失	267	47
税金等調整前四半期純利益	3,905	△ 455
法人税等	973	243
少数株主損益調整前四半期純利益	2,931	-
少数株主利益	578	213
四半期純利益	2,353	△ 912

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

単位：百万円

科目	当第2四半期 (2010.4.1~ 2010.9.30)	前第2四半期 (2009.4.1~ 2009.9.30)
● 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,248	3,154
● 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 619	△ 2,279
● 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,247	△ 1,970
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 204	59
現金及び現金同等物の増減額	177	△ 1,036
現金及び現金同等物の期首残高	14,402	14,402
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	132	108
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,712	13,474

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、42億4千8百万円（前年同期比34.7%増）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益が39億5百万円となった一方、たな卸資産が増加したこと等によるものであります。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、6億1千9百万円（同72.8%減）となりました。これは主に有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出が減少したこと等によるものであります。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、32億4千7百万円（前年同期比64.8%増）となりました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。

ダイハツ工業『品質優秀賞』を6年連続受賞 日産自動車『優秀品質感謝状』を受賞

ダイハツ工業の2009年度『連続品質優秀賞』を受賞し、今回で6年連続の受賞となりました。ダイハツが仕入先を表彰する賞には数種類ありますが、この連続品質優秀賞は、中でも最高の賞にあたります。



また、日産自動車から09年度『優秀品質感謝状』を授与されました。この賞は、「Regional Quality Award」(TPRは07年度に受賞)に次ぐ荣誉のある賞で、今回受賞したのは約250社あるサプライヤ中僅かに3社でした。



いずれもTPRの技術、生産及び品質に対する総合力評価によるものと考えており、今後もさらなる継続に尽力していきます。

11番目の国内関係会社「TPRサンライト」が誕生！

10月22日に(株)サンライト(代表取締役:薬師寺啓子、本社:東京都北区王子)の株式取得手続きが完了し、国内11社目のTPRグループ関係会社が誕生しました。2011年4月からは、社名を「TPRサンライト株式会社」として運用予定しております。



(株)サンライト薬師寺社長と握手する平出社長

(株)サンライトは、産業用の各種ゴム製品の開発、製造、販売を35年に亘って培ってきた専門メーカーです。

これによりTPRグループは、従来からの得意分野である金属系(鉄、鋳鉄、鋁、銅合金等)以外の樹脂やゴムなど幅広い分野の材料・加工技術に取り組むことで新しい事業展開への可能性を追求し、将来の企業環境の変化への対応力を強める事業戦略を進めてまいります。

会社概要

- 社 名 TPR帝国ピストンリング株式会社
- 住 所 〒100-0005
東京都千代田区丸の内一丁目8番1号
丸の内トラストタワーN館
TEL : 03-5293-2811 (大代表)
URL : <http://www.tpr.co.jp/>
- 資 本 金 43億62百万円
- 設 立 1939年12月3日
- 従 業 員 840名

株式情報

株式の状況

発行可能株式総数	135,000,000 株
発行済株式の総数	35,553,099 株
株主数	8,778 名
上記のうち議決権を有する株主数	7,989 名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
明治安田生命保険相互会社	2,395,000	6.73
株式会社損害保険ジャパン	2,293,000	6.44
トヨタ自動車株式会社	2,070,600	5.82
株式会社みずほコーポレート銀行	1,518,800	4.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,394,100	3.92
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,302,200	3.66
帝国ピストンリング取引先持株会	1,132,900	3.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	952,900	2.68
東京建物株式会社	933,687	2.62
みずほ信託銀行株式会社	766,000	2.15

お知らせ

単元未満株式の買取制度について

単元未満株式(100株に満たない当社株式)を当社が買い取る【買取制度】がございます。

詳しくは、みずほ信託銀行(0120-288-324)にお問い合わせください。

配当金の確定申告について

確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。